



創立五十周年記念事業 雅楽コンサート

◆ 開催日：平成二十三年十二月二十九日
◆ 場 所：栃木県総合文化センター サブホール

栃木県青年神職むすび会創立五十周年記念事業として平成二十三年十一月二十九日栃木県総合文化センターにおいて「雅楽」G a G a K u「コンサート」を開催いたしました。

今回の雅楽コンサートは、五十周年事業『次世代への継承』という副題に合わせ、日本

文化の伝統継承を目的とし開催するに至りました。演奏していただきました東京の雅楽団体『雅楽道友会』様は、東京を始め栃木県内の神社や学校など民間への雅楽の普及を目標に掲げ、日々活動なさっております。



当日は、第一部・第二部あわせて八百名の方にご参集いただきました。演奏の前には雅楽のことを一般の皆様にも広く知っていただくために、雅楽の歴史や、笙・箏・笛をはじめとする楽器の説明、普段何気なく使用している言葉の中にも「ろれつが回らない」や「打ち合わせをする」など）雅楽に由来したものがあふれることを教えていただきました。わかりやすい説明のもと、雅楽がより身近なものに感じられる、楽しい時間を設けることができました。

その後、管絃平調越殿楽、陪臚、朗詠、嘉辰、舞楽左舞胡飲酒、右舞納曾利を演奏舞していただき、古より伝わる雅な音色に酔いしれました。

伝統文化の継承は神社界の大きな使命であります。今後とも雅楽等伝統文化の普及継承に努めてまいりたいと存じます。最後に、本公演開催にあたり様々な形でご尽力ご協賛賜りました先輩諸兄を始め、皆様には衷心より厚く御礼申し上げます。



雅楽とは

雅楽とは、日本列島古来の歌舞と外来の楽舞とが融合し、平安時代に大成しました。我が国固有の歌舞「国風歌舞」、中国より伝えられた「唐楽」、朝鮮半島を経て伝えられた「高麗楽」、とに大別することができます。

「雅楽」といっても、管絃(唐楽)、舞楽(左方唐楽・右方高麗楽)、国風歌舞、朗詠、などに分類することができます。

ここで、今回のコンサートに使われた楽器、曲目を紹介いたします。

雅楽コンサート演目

◎主催者挨拶		管絃		舞楽	
◎講演		雅楽解説		出演者	
◎管絃・朗詠		楽器紹介		管絃	
◎舞楽		越殿楽		舞楽	
◎舞楽		嘉辰		舞楽	
◎舞楽		陪臚		舞楽	
◎舞楽		左方 胡飲酒		舞楽	
◎舞楽		右方 納曾利		舞楽	
◎舞楽		《長慶子》		舞楽	

平調音取

唐楽には、壹越調・平調・双調・黄鐘調、盤渉調、太食調の六調子があり、今回演奏して頂いたのは平調です。

「音取」は、合奏に先立って楽器の音律を整えます。鳳笙・箏・笛の順に旋律を奏し、それに羯鼓・琵琶・等が加わっていきます。

朗詠・嘉辰

朗詠とは漢詩を旋律にのせ、笙・箏・笛の付物と共に歌われるものです。

嘉辰は、古くから儀式や公宴といった、晴れの行事で頻りに用いられる常用曲です。

♪嘉辰 令月歌無極
♪万歳千秋楽未央

越殿楽(平調)

中国漢時代の皇帝文帝の作品と伝えられています。

雅楽の中で最も有名な曲で、結婚式などでも流されており、民謡の黒田節などにはその旋律が用いられています。

平調の他に盤渉調と黄鐘調の越殿楽もあります。

陪臚

現在のインドが天然と呼ばれていた頃作られた曲といわれています。戦いに行く時にこの曲を奏でて戦勝を祈願したともいわれています。

舞は、聖徳太子が物部守屋との対戦の時にこの曲を奏し戦に勝つたのを模して作られたといわれています。

楽器紹介

三管 管楽器

さんかん

吹口から息を吹き込み、管内の空気を振動させて音を出します。

篳篥

ひちりき

竹筒型の楽器に蘆で作ったリードを差し込んで吹きます。指を変えずに一音程度変化を付ける「塩梅」という独特な奏法で曲にスケール感を与えます。

笙

しやう

楽器の姿が鳳凰に似ていることから鳳笙とも呼ばれます。吹いても吸っても音が出る為、始めから終りまで音を絶やさず奏します。

龍笛

りゅうてき

龍笛の音色は、篳篥の奏でる旋律に彩りを加え曲に華やかさをもたせます。殆どの曲は龍笛の音頭で始まる為、テンポを決める役割をします。

三鼓 打物

さんこ

打楽器のことを、打物(うちもの)と言います。

鉦鼓

しょうこ

雅楽で唯一の金属製楽器です。羯鼓や太鼓の音色の装飾をし、合奏に華やかさを添えます。

楽太鼓

がくたいこ

「鈞太鼓」とも呼ばれています。太鼓は、舞台の最前列中央に座し、桴の動きが後ろの演奏者によく見える為、タイミングをはかる際の要となります。

羯鼓

かっこ

演奏の速度を決めたり終りの合図を出す役目を担っている為、指揮者のような役割をします。

両絃 絲物

りょうげん

絃楽器(げんがつき)のことを、絲物(いともの)と言います。

楽琵琶

がくびわ

奈良時代に中国から伝えられた楽器で、曲の中では、掻撥等の様々な奏法で拍子に厚みをもたせる役割をします。

楽箏

がくそう

一般的な琴を俗箏、雅楽で使われる琴を楽箏と言います。主に、曲の拍子を定める役割をします。

左方 胡飲酒

(こんじゅ)

左方舞とは

唐、天竺、林邑から伝わった音楽「唐楽」を伴奏とする舞です。

「酔胡楽」「宴飲楽」の別名を持つ舞楽曲で、胡の国の人が酒に酔ってこの曲を奏し、その姿を模して舞にしたものと伝えられています。

舞は一人舞で、舞人は酒杓を模したものとされる桴を頻繁に持ち替へながら、髪を振り乱し、舞台狭しと動き回り、泥酔した様子を表現しています。



右方 納曾利

(なぞり)

右方舞とは

朝鮮半島や渤海国から渡来したとされる高麗楽にあわせて舞われます。別名「双龍舞」といい雌雄の龍が楽しげに遊び戯れる様子を舞にしたものと伝えられています。またこの舞を一人で舞うこともあり、その場合「落蹲」の名称で呼ばれています。

平安時代には、右方「納曾利」左方「陵王」の番舞として、競馬などの競技で左右に分かれて競った際、右方が勝てばこの「納曾利」を舞い、勝利を祝っていたそうです。



主催者挨拶



演奏風景

雅楽準備・リハーサル風景



当日の演者、会員



雅楽コンサート制作物



看板



A1ポスター



A4チラシ

DVD

下野新聞7段
平成23年9月28日掲載



次世代への継承

今回の雅楽コンサートは、日本文化の継承を目的としたことから、リハーサル時には、八幡台幼稚園の年長組の園児百二十名を招待し、雅楽を鑑賞していただきました。

ほとんどの子ども達が初めて目にする舞台や楽器、舞人の衣装に驚き、日常では耳にすることのない音の迫力に圧倒されていました。

また、園児だけでなく、初心者の方にも雅楽のことを知っていただくために、演奏の前に雅楽の解説を取り入れました。

伝統文化の継承は神社界の大きな使命であります。今後とも雅楽等伝統文化の普及に努めてまいりたいと存じますので、今回のコンサートを機に、より多くの方に雅楽に親しんでいただけたら幸いです。



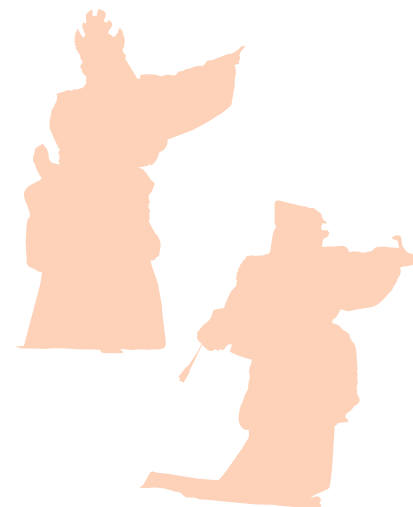
復興への思い

今回の演奏会には、東日本大震災で被災され、栃木県那須烏山市にて仮設住宅で暮らす被災者の方々をご招待させていただきました。

また、本会と神道青年全国協議会が行っております被災地支援活動の一環として、福島県いわき市久之浜座諏訪神社高木欄宜様と連携し「久之浜にストーブを送ろう」と題し会場内に募金箱を設けさせていただきました。

皆さまからいただいた義援金は、平成二十三年十二月八日現地に赴き、ストーブ購入費用等に使っていただくよう、高木欄宜様へお渡しいたしました。

(古峯神社 権欄宜 黒本裕子)



義援金198,381円集まりました





祭典風景

古来より大陸と日本を結ぶ文化の交差点にあった沖縄は年間を通して温暖な気候と豊かな自然の恵を受け、自然崇拜を基とする独自の琉球神道を発展させてきました。村々には御嶽【ウタキ】という神聖な森があり、祝女【ノロ】と呼ばれる女性神官が祭祀を司っていました。御嶽は所謂鎮守の杜であると同時にそのものを神の依り代、神籬として信仰されてきました。神社神道と多く類似することから、神道の起源ではないかとする説もあります。自然を畏れ祖先を敬い、公の幸せが己の幸せであるとする精神は温和な島の人々の中に脈々と受け継がれています。

我ら栃木県青年神職むすび会が旗揚げしてより平成二十四年で半世紀。県内で神明奉仕する若手神職が会員相互の融和と親睦を図り、神社の垣根を越えた氏子崇敬者の教化育成に果敢に取組み、更なる研鑽に励む有志の会として今日まで一貫した活動を展開してまいりました。沖縄が本土復帰を果たして四十年の節を迎えるに当り、栃木の塔で慰霊祭を肅行することは大変意義のあることであり、むすび会精神を体現して

沖縄本土復帰四十年・沖縄県栃木の塔慰霊祭

開催日：平成二十四年五月二十三日

場 所：糸満市平和祈念公園内「栃木の塔」

齋主	当会副会長・周年記念実行委員長
八坂神社	権瀬宜 滝口 貴史
祭員	八雲神社 宮司 小堀 真洋
三祖神社	宮司 阿久津喜大
今宮神社	権瀬宜 福田 財大
大前神社	瀬宜 柳田 耕史
日光二荒山神社	権瀬宜 福田 有宏
津島神社	瀬宜 岩松 史恵
岩崎神社	瀬宜 田邊 雅祥
白鷺神社	瀬宜 上野 敬則
村檜神社	宮司 寺内 誉通
今宮神社	権瀬宜 高橋林之介

式次第

一、修祓

一、齋主一拝

一、献饌

一、祭詞奏上

一、祭文奏上

一、浦安の舞 奉奏

一、玉串拝礼

齋主・祭員

栃木県青年神職むすび会

会長 田 中 教 文

栃木県護国神社

宮司 稲 寿

栃の葉会

会長 高 久 健 治

沖縄県神道青年会

会長 田 場 聡

一、撤饌

一、齋主一拝



出発前に栃木県護国神社にて



集合写真

いるのではないだろうか。

栃木の塔は先の大戦において南方方面で戦没された本県出身者三万四千四百九十五柱を慰霊するため、当時の横川信夫栃木県知事が会長となり、県・県議会・遺族連合会、各市町村・同議会・戦争関係諸団体・農工商関係団体・金融団体その他県内各界の代表をもって組織する「栃木南方方面戦没者慰霊塔建設委員会」を結成し、沖縄県糸満市摩文仁の平和祈念公園内に昭和四十一年十月三十日建立されました。沖縄本土復帰はそれから六年後の昭和四十七年（一九七二年）五月十五日であります。

サンフランシスコ講和条約により昭和二十七年（一九五二年）四月二十八日から約二十年間に亘り米国の施政権下に置かれた沖縄は一九五〇年代から一九六〇年代にかけて東西冷戦が過熱する中において東側諸国に対しての抑止力を持った巨大軍事要塞として姿を変えてゆきました。施政権を元に住民を強制的に移住させ、軍事施設を拡大する一方、米国兵士による悪質な交通事故、凶悪事件が頻発し、県民の米国に対する不信任は日増しに大きくなってゆきました。多くの犠牲を経てようやく実現した本土復帰でしたが、危険や不安は四十年経った今日も目に見えないかたちで沖縄県民の間近に存在しており、戦中戦後を通して沖縄が耐え忍んできた苦痛は計り知れません。厳粛な慰霊祭に相応しいご奉仕が無事に務まるのか神妙な面持ちで沖縄県を訪れたのは梅雨入りして間も無い五月二十三日のことでした。天候を心配しておりましたが南国の眩しい日差しに歓待を受ながら、滝口実行委員長を齋主に会員十一名奉仕のもと、田中会長他三名の玉串拝礼を賜り、紺碧の空の下で無事執り行うことができました。この貴重な経験を糧とし、沖縄の人々により一層心を寄せてゆく決意を一同あらたに致しました。

時代の波に翻弄されながらも郷土を守り抜いて下さったすべての先人たちに感謝の誠を捧げ奉り、結びと致します。

（日光二荒山神社 権瀬宜 福田有宏）





田中会長 訓示



奉告祭



当日、栃木県神社庁神殿前にて奉告祭を斎行



記念大会会場にて会式前に会員とともに



創立五十周年記念大会を栃木県神社庁・ホテル東日本宇都宮にて開催いたしました。当日は栃木県神社庁神殿にて当会監事と氣齋主のもと、神前にて奉告祭を斎行し、五十周年記念大会の成功を祈りました。

場所をホテル東日本宇都宮に移して記念大会を開催いたしました。栃木県神社庁長石原敬士様、神道青年全国協議会会長大野清徳様、栃木県神社総代会連合会会長島田嘉内様をはじめ県内はもとより全国から多くのご来賓、同志をお招きして、厳粛かつ盛大に開催いたしました。

第一部記念式典では会長式辞、五十周年記念事業報告をはじめ歴代会長に感謝状を贈呈し、第二部では参議院議員三原じゅん子先生をお迎えし「守ってあげたい。いのちを懸けて」と題し記念講演をいただきました。講演ではいのちの尊さについて、特に子宮頸がんの予防ワクチンの普及についてお話をいただきました。

第三部記念懇親会では栃木県知事福田富一様、県議会議長高橋文吉様をご来賓に迎え開催いたしました。祝宴の中で栃木県が誇る邦楽ユニットソリスデンによる清輿が行われ、記念大会に花を添えていただきました。

ご参加いただきましたご来賓の皆様、全国の同志とともに五十周年の記念大会を無事終了出来ましたことを感謝し次の五年、十年に繋げて行きたいと思えます。



「守ってあげたい。いのちを懸けて」
参議院議員
三原 じゅん子 先生

◆経歴
昭和三十九年九月十三日生まれ
昭和四十七年 東京宝映テレビ劇団シ入団
昭和五十四年 TBS「3年連続金八先生」出演
昭和五十七年 国際B級ライセンスを取得し、
昭和六十二年 レーシングドライバーとして活動（「平成十一年」NHK「すくらん」NHK連続テレビ小説「フライト」）
その他テレビ出演、映画、舞台等多数出演
平成二十二年七月 第二十二回参議院議員通常選挙 全国比例区にて初当選

◆現役職
参議院 厚生労働委員会
参議院 予算委員会
参議院 北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会：委員
参議院 国民生活・経済・社会保障に関する議員連盟
参議院 どうぶつ愛護議員連盟
参議院 遊説局
参議院 ネットメディア局
参議院 女性局
参議院 厚生労働部会
参議院 厚生関係団体委員会
参議院 労働関係団体委員会
参議院 子宫颈癌がん予防ワクチンに関するプロジェクトチーム
参議院 栃木県支部連合会
参議院 東京都支部連合会
参議院 神奈川支部連合会
参議院 川崎市支部連合会



乾杯 副庁長 黒川正邦様



歓談風景



中継め 十五代会長 星野芳典様



神青協一部七県協議会 会長 矢野幸士様



神道政治連盟 栃木県本部 本部長 提署元之様



県会議長 高橋文吉様



栃木県知事 福田富一様



総開き



式典会場準備風景

が、四月二十六日、むすび会創立五十周年記念事業委員による選考会を行い、厳正な審査の結果入選作品十三点を選出し、

でも息を呑む美しさで幽玄と呼ぶに相応しく、自然と共にある神々が確かにそこには存在する《鎮守の杜》を感じさせる作品でした。地域の祭りをテーマにされた方の作品には、祭りを愛する地域の人々の想いや神様に感謝する心なども感じ取れ、祭りがその地にしっかりと根付き、人々と共に繁栄してきたことが窺えました。

普段我々神主が、一番分かっているように実は見落としてしまっている祭りの本当の素晴らしさや真の意味、また自然の雄大さと美しさを改めて考えさせられる一時でした。どの作品も本当に素晴らしい力作ばかりでしたが、四月二十六日、むすび会創立五十周年記念事業委員による選考会を行い、厳正な審査の結果入選作品十三点を選出し、



選考風景

五月九日の創立五十周年記念大会時の決戦投票に臨みました。

記念大会当日、式典会場入口前にギャラリーを設け、十三点の入選作品を展示いたしました。大会参加の方々に休憩時間の合間に作品をご鑑賞いただき、投票用紙にて良いと思った作品三点を選んで投票していただきました。多くの投票をいただき、即日開票の結果、上位三作品が入賞決定いたしましたので、式典後の直会にて発表させていただきました。後日六月二十六日には栃木県神社庁神前にて写真コンテスト報告祭並びに表彰式を執り行い、入賞された三名には周年記念事業実行委員長より、賞状と副賞がそれぞれ授与されました。

こうして、多くの方のご協力とご支援のおかげで、無事に「とちぎの神社とまつり」写真コンテストは終了することができまし



入賞された方々と

た。また、この場をお借りしまして写真を応募して下さった多くの方々に感謝の意を表すると共に、今後も「まつり」や地域の特色ある行事を通じて、日本の伝統的風習や慣習が受け継がれていくことをご祈念いたしたいと思いをします。

（諏訪神社 宮司 櫻木琢也）



募集要項パンフレット

栃木県内には約千九百社の神社があります。ゆたかな自然の中に神々の働きを感じ感謝と祈りを捧げる「祭り」は、春祭、夏祭、秋祭をはじめその他各社地域において特色のある行事が年間四季を通じて、様々な形で行われてきました。今回、当会創立五十周年記念事業のひとつとして、そのような日本独特の神社の風景または祭の情景など、写真を通じて再発見し、更には後世に日本の伝統的風習を守り伝えるべく、「とちぎの神社とまつり」と題し、写真コンテストを実施いたしました。

企画内容といたしましては、まず栃木県

内の神社の祭りや神事にゆかりのある風景・人生儀礼を作品テーマに、平成二十一年から平成二十四年までの間、アマチュアカメラマンによって撮影された作品を対象条件といたしました。募集期間は平成二十三年八月から平成二十四年四月まで、申込用紙を兼ねた応募案内パンフレットを作成し県内大手写真店や写真関係団体への配布、またインターネット上の写真コンテスト情報サイトへの登録など、多くの方々の応募をいただけるようコンテストの案内周知をいたしました。

募集期間中、栃木県内はもとより、東京都・茨城県など県外の方の応募もいただき、総応募人数五十九人、作品点数百二十九点の大変多数の応募をいただきました。アマチュアカメラマンといっても写真への造形が深い方々が多く、それぞれ独自の視点や観点でとらえた作品ばかりで、見ているだけで祭りの活気や賑やかさがそのまま伝わってくる躍動感溢れる作品もあれば、神社の厳かさを感じさせる重厚な作品もあり、



大多数の応募作品が集まりました

まさに静と動を一枚の写真の中に見事に収められていました。

また、四季の移り変わりに視点を向け、折々の華やかな色彩の中に鎮座する神社を捉えた作品は普段から見慣れている私たち

◇開催日：平成二十三年六月二十六日
◇場所：栃木県神社庁神前



「大神輿の渡御」
海老沼 清一郎 様 (小山市／須賀神社)



「祭りのクライマックス」
五月女 久雄 様 (小山市間々田／八幡宮)



「流鏝馬」
大宮司 和照 様 (大田原市／大宮温泉神社)



「歓気の団結」
川崎 宣雄 様 (上河内／羽黒山神社)

入選

(順不同)



「雪の鷲子山上神社」
森嶋 新勝 様 (那珂川町／鷲子山上神社)



「伝統の継承」
江川 多嘉 様 (矢板市／木桶神社)



「花咲く参道」
荒井 辰男 様 (鹿沼市／磯山神社)



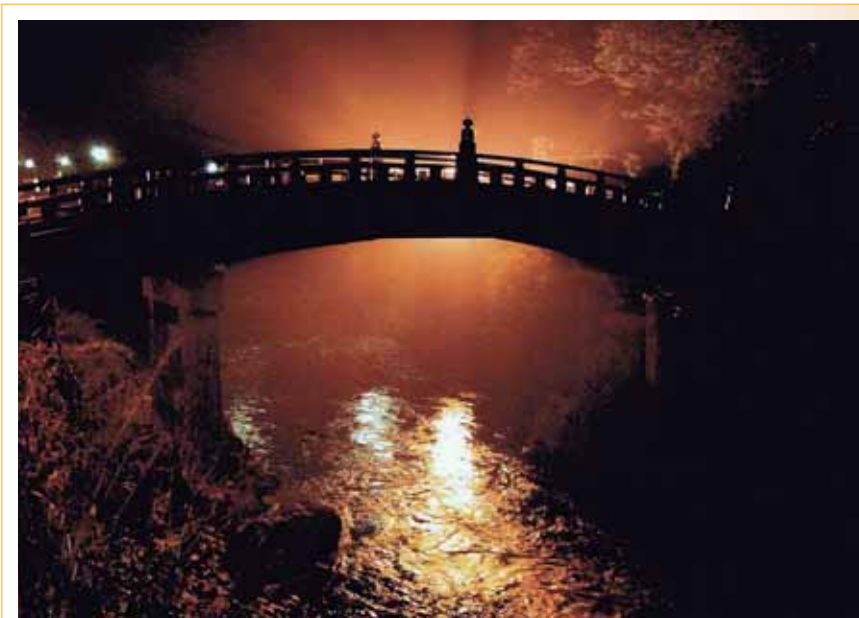
「霧中祈願」
海老根 登 様 (日光市／二荒山神社)



「梅香る杜」
櫻木 賢治 様 (佐野市／朝日森天満宮)



「元気に提灯をもむ」
竹熊 孝 様 (野木町／野木神社)



金賞

「暗夜に浮く」
大矢 喜洋 様
(日光市／二荒山神社)

銀賞



「山門の秋」
吉江 定男 様
(佐野市／唐澤山神社)



銅賞

「泣きずもう」
片山 久子 様
(鹿沼市／生子神社)

歴代会長・副会長・関東地区理事出向者名簿

栃木県青年神職むすび会

初代	初代（二期）	二 代	三 代	四 代	五 代（二期）	五 代（二期）	六 代（二期）	六 代（二期）	六 代（三期）	七 代	八 代	九 代（二期）	九 代（二期）	十 代	十一 代	十二 代	十三 代	十四 代	十五 代	十六 代	十七 代	十八 代	十九 代	二十 代	二十一 代																
会長	横瀬 勝壽	会長	横瀬 勝壽	会長	黒川 正邦	会長	黒川 正邦	会長	阿部 豊	会長	中麿 輝美	会長	柳田 耕太	会長	若松 豊明	会長	若松 豊明	会長	上野 喜則	会長	柳田 文司	会長	稲 寿	会長	加藤 直人	会長	上野 武男	会長	星野 芳典	会長	菱沼 至広	会長	人見 文治	会長	小幡 正之	会長	荒井 和宏	会長	田中 教文	会長	滝口 貴史
副会長	荒川 本一	副会長	提箸 克之	副会長	矢野 忠弘	副会長	矢野 忠弘	副会長	池田 清	副会長	柳田 耕太	副会長	佐藤 元典	副会長	齋藤 芳史	副会長	上野 喜則	副会長	柳田 文司	副会長	稲 寿	副会長	加藤 直人	副会長	上野 武男	副会長	星野 芳典	副会長	菱沼 至広	副会長	人見 文治	副会長	伊原 弘之	副会長	香取 正義	副会長	伊藤 史展	副会長	沼部 博成	副会長	福田 財大
（昭和三十八年～四十一年度）	（昭和四十一年～四十二年度）	（昭和四十三年～四十四年度）	（昭和四十五年～四十六年度）	（昭和四十七年～四十八年度）	（昭和四十九年～五十一年度）	（昭和五十一年～五十二年度）	（昭和五十三年～五十四年度）	（昭和五十五年～五十六年度）	（昭和五十七年度）	（昭和五十八年～五十九年度）	（昭和六十年～六十一年度）	（昭和六十二年～六十三年度）	（平成元年～二年度）	（平成三年～四年度）	（平成五年～六年度）	（平成七年～八年度）	（平成九年～十年度）	（平成十一年～十二年度）	（平成十三年～十四年度）	（平成十五年～十六年度）	（平成十七年～十八年度）	（平成十九年～二十年度）	（平成二十一年～二十二年度）	（平成二十三年～二十四年度）	（平成二十五年～二十六年度）																

神青協関東地区
理事歴代出向者
黒川 正邦
稲 寿
伊原 弘之

むすび会会員名簿

平成二十三年・二十四年度

協力業者

栃木県青年神職むすび会	役 職 員	会 長	副 会 長	副 会 長	議 長	監 事	監 事	監 事	監 事	事務局長	会 計	庶 務	会 員	栃木県青年神職むすび会
		田 中 教 文	沼 部 博 成	滝 口 貴 史	阿 久 津 喜 大	小 堀 真 洋	福 田 財 大	和 氣 洋 誠	柳 田 耕 史	金 子 宗 人	大 阿 久 岩 貴		福 田 光 弘	稲 葉 成 孝

櫻 木 琢 也	小 林 宣 彦	新 井 隆 宏	石 原 奈 央 子	橋 口 幸 司	町 井 康 祐	大 柿 文 彦	多 田 めぐみ	葭 田 真 彦	横 瀬 宣 一	多 田 隆 一	沼 部 泰 幸	外 鯨 泰 子	下 妻 大 介	福 田 宏	黒 川 寧 子	岩 松 史 恵	板 垣 喜 充	秋 元 亮 平	黒 川 裕 正	津 田 宏	津 田 亮
根 本 直 樹	福 田 直 之	増 淵 元	田 邊 雅 祥	中 田 明	上 野 敬 則	坂 本 龍 彦	寺 内 誉 迪	高 橋 林 之 介	和 田 晋 典	田 邊 達 也	大 塚 聡 也	石 川 元	黒 本 裕 子	増 本 直 紀	増 本 直 紀	山 本 明 翔	池 口 晋 作	中 田 敦 明	和 氣 裕 美	栗 原 義 宜	小 野 彰

株式会社 阿部	石川工務店	石のハヤシ	株式会社 井上総合印刷	今村紙業株式会社	岩戸屋	大槻装束店	株式会社 神路社	関東自転車	京都奉製株式会社	近畿日本ツーリスト株式会社 宇都宮支店	グリーン産商株式会社	株式会社 小西美術工藝社	株式会社 三愛工芸	JTB関東法人営業宇都宮支店	株式会社 下野広告社	下野新聞社	常陸神宝株式会社	神宮会館	新日本工芸株式会社	株式会社 新日本石匠	鈴木徽章工芸株式会社
---------	-------	-------	-------------	----------	-----	-------	----------	-------	----------	---------------------	------------	--------------	-----------	----------------	------------	-------	----------	------	-----------	------------	------------

勢乃國屋	第一酒造株式会社	太子館	有限会社 タイヤショップナカヤマ	株式会社 高善装束店	宝塾	東照温泉	栃木グランドホテル	とちぎテレビ	CRT栃木放送	株式会社 外池酒造店	株式会社 長谷川製作所	伴印刷株式会社	株式会社 福生	ホテル東日本宇都宮	益子印刷	株式会社 湊	株式会社 民俗工芸	有限会社 モミヂヤ	株式会社 陵石匠		（五十音順）
------	----------	-----	------------------	------------	----	------	-----------	--------	---------	------------	-------------	---------	---------	-----------	------	--------	-----------	-----------	----------	--	--------

黒崎健二	岡田学	長倉彰	西山高	宮本勝利	伊藤史展	伊藤文彦	一條裕美	和氣達郎	和氣明子	佐藤雄一	岩井清勝	荒井正勝	小幡仁美	横山仁美	大塚英吉	小森英世	塩田正一	越口隆一	齊藤矢嗣	野澤一嗣	堀口邦夫	伊藤佳行	加藤直人	深津久人	柳田耕太	増田孝二	福田孝二
戸隠神社	鷺子山上神社	静神社	筈根神社	塩竈神社	塩竈神社	石上神社	高高山神社	高高山神社	喜連川神社	津島神社	安住神社	鹿嶋神社	鹿嶋神社	鹿嶋神社	日枝神社	亀岡八幡宮	鹿嶋神社	天満宮	安住神社	長沼八幡宮	千代ヶ岡八幡宮	中村八幡宮	大前恵比寿神社	大前神社	大前神社	五料神社	高麗神社
宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司
南那須	南那須	南那須	南那須	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷	塩谷

川村好一	川村好一	渡辺一丸	和田節	武内彩	奥内彩	大河原修	阿部修	石原恵	香取弘	伊原弘	金子宗	齋藤芳史	柴田美晴	中膳輝彦	吉田健彦	高根正智	月江寛	人見文三	人見文三	中田芳明	星野健二	渡田武兵衛	津田秀和	相馬宏志	小泉宏志	吉田正導
平田神社	平田神社	岩崎神社	高男神社	瀧尾神社	報徳二宮神社	古峯神社	古峯神社	古峯神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社
宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司
上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須	上那須

上野武男	齋藤哲男	柳田文男	若松豊明	阿部徳	助川通泰	■県内神職	栃木県神社庁・宇河支部	栃木県神社庁・芳賀支部	栃木県神社庁・塩谷支部	栃木県神社庁・南那須支部	栃木県神社庁・北那須支部	栃木県神社庁・上那須支部	栃木県神社庁・下那須支部	栃木県神社庁・安佐支部	日光東照宮
二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社
権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜	権禰宜
宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河

手塚里次	中成行	外鯨男	多田武一郎	大柿英之	加古寿	稲内文	武友和	國友晃昭	萩野正美	萩野正美	小島教敬	上野喜則	上野喜則	山本尊紀	増田孝子	葭田幸男	江部幸雄	渡邊輝生	阿久津誠	佐藤智則	野崎正宏	荒井和宏	大野房典
稲荷神社	白山神社	智賀都神社	高麗神社	日吉神社	栃木県護国神社	高麗神社	中嶋神社	天満宮	天満宮	八幡宮	白鷺神社	白鷺神社	八坂神社	八坂神社	八坂神社	八坂神社	平出神社	三祖神社	三祖神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社	二荒山神社
権禰宜	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司
宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河	宇河

東日本大震災復興支援事業

《特別活動報告》

当会の復興支援活動の記録



栗原宏子	栗原城治	角田加修子	沼部春友	沼部義宜	栗原千早	栗原裕	熊倉教裕	荒川千裕	荒川濱子	松尾史恵	寺内法子	新井健志	菱沼至広	早乙女瑞穂	阿部康弘	小林宣彦	小林一成	若松延雄	横瀬勝	篠田薫	岡本俊和	金子信彦	瀬戸口隆	山下和之	狐塚泰久
八幡宮	八幡宮	高崎神社	須賀神社	須賀神社	胸方神社	日枝神社	住吉神社	住吉神社	村檜神社	村檜神社	磐根神社	鷺宮神社	太平山神社	太平山神社	太平山神社	太平山神社	口栗野神社	賀蘇山神社	清瀧神社	日向神社	磯山神社	今宮神社	今宮神社	今宮神社	高麗神社
權禰宜	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	權禰宜	權禰宜	宮司	宮司	宮司	權禰宜	權禰宜	權禰宜	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	權禰宜	權禰宜	宮司	宮司
下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	上都賀	上都賀	上都賀	上都賀	上都賀	上都賀	上都賀	上都賀

鈴木教子	湯澤義之	小堀俊夫	小野寺建富	提箸克之	村檜知榮子	宮田義丸	木村直樹	影山幹男	八下田照	毛利昭郎	安蘇谷正彦	早乙女昭司	齋藤兵衛	永澤宣浩	新村貢一	富田直幹	長竹正行	佐野正行	小林靖	宇賀神義宣	平山善之	刀川治久	刀川清満	後藤清美	黒川正邦	海老沼邦莞
栃木県神社庁	栃木県神社庁	御厨神社	日光鹿島神社	伊勢神社	浅間神社	八坂神社	示現神社	宇都宮神社	加茂別雷神社	加茂別雷神社	一瓶塚稻荷神社	赤城神社	沼錚神社	朝日森天満宮	星宮神社	唐澤山神社	唐澤山神社	唐澤山神社	唐澤山神社	星宮神社	鷲宮神社	磐裂根袈裟神社	磐裂根袈裟神社	熊野神社	雄琴神社	乃木神社
録事	主事	宮司	宮司	宮司	権禰宜	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司	権禰宜	権禰宜	宮司	宮司	宮司	権禰宜	宮司	宮司	宮司	宮司	宮司
		足利	足利	足利	安佐	安佐	安佐	安佐	安佐	安佐	安佐	安佐	安佐	安佐	安佐	安佐	安佐	安佐	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀	下都賀

※平成二十四年五月九日當時の役職にて記載されて頂

※平成二十四年五月九日当時の役職にて記載させて頂きました。

